



陸上競技教室（平成29年11月5日）で撮影

スポーツの役割と体育協会

野田市体育協会は戦後間もない日本で、戦争の被害から立ち直ろうとする青少年の力となり、その成長を導こうと昭和22（1947）年10月14日、発足しました。

戦後の混乱期に青少年を健全に育成するためには、地域住民が健康である環境が必要と考えた体育協会は、結成記念として市民運動会や東葛飾地方中学校駅伝競走大会を創設します。



平成29年の第71回には全71校が参加

こうしたスポーツの普及活動が評価され、昭和25（1950）年に開催された国民体育大会秋季大会の開会式では、全国初の社会体育

優良団体として、文部大臣から表彰されました。

子どもから高齢者まで楽しめる生涯スポーツの気運が高まってくると、スポーツ教室や講演会にトックラスの競技者や指導者を招いたり、グラウンド・ゴルフなどの軽スポーツ団体が加盟したりと市民全員が意欲を持ってスポーツに臨める環境づくりを行ってきました。

体育協会には現在、28種目（1種目は休部中）のスポーツ団体が加盟しています。

毎年開催している「スポーツの集い」では、更なる高みへの挑戦の糧にしてもら

おうと、その年ごとに非常に優秀な成績を収めた青少年や指導者、シニアを表彰しています。

同時に、競技者の実力向上には指導者の育成も必要であることから、スポーツ界の著名人を



プロ野球での秘話を絡めた指導法の紹介

招いて講座を開催しています。

平成29年は、プロ野球の東京ヤクルトスワローズの小川淳司監督に自らの経験を踏まえた選手の指導法を講演していただきました。

◆記念教室でアスリートが講師に

平成29年で創立70周年を迎えた体育協会は、記念事業として11月に子どもたちを対象に陸上競技教室を開催しました。

講師として登場したのが、元日本代表である高瀬慧氏（短距離）と荒川大輔氏（走幅跳）、新井涼平氏（やり投）に加え、渡邊研氏（長距離）です。